

北九州空港アクセス鉄道調査のまとめ

調査主体

H13～H15

北九州空港アクセス鉄道整備検討委員会（北九州市）：3ルートの提案

在来線新門司ルート
(640 億円)

在来線下曾根ルート
(600 億円)

高規格新門司ルート
(960 億円) = 新幹線

市

H15～H17

北九州空港軌道系アクセス検討委員会（福岡県、九州運輸局）

事業費 655 億円
運賃 800 円

事業費 621 億円
運賃 1,100 円

事業費 984 億円
運賃 1,100 円

国・県

アクセス鉄道採算性確保のために必要な航空旅客数（福岡県の公表）

航空旅客 450 万人

航空旅客 600 万人

これを受け、アクセス鉄道の実現に向けては事業採算性の確保を課題とした

H18 需要予測・必要性等の再整理

H19～ 3ルートの採算性向上の検討

（鉄道事業採算性向上の検討）

途中駅の設置、空港島内の企業立地により、鉄道旅客を増やすことを想定した需要方策の検討

H20

東九州地域の現状・将来ビジョン等の把握
東九州地域における高速交通体系を踏まえた空港、アクセス鉄道のあり方を整理

H21

北九州空港アクセス鉄道構想に関する勉強会（九州運輸局、鉄道運輸機構、市）

H22

事業費や需要予測の精査

空港島への企業立地による鉄道旅客増

途中駅の設置による鉄道旅客増

フリーゲージトレイン導入の検討

行橋方面 東九州など広域からの集客

在来新門司 680 億円

（途中駅無）657 億円
（途中駅＋分岐）825 億円

高規格 1188 億円
高規格 FGT1600 億円

最も採算性が良い「在来線新門司ルート」の場合、途中駅の設置や空港島内への企業立地等を想定することにより、**想定航空旅客数 300 万人/年**で採算性を確保できる

これをもって検討は休止し、**航空旅客数が 200 万人/年**を超えたら検討再開

市